



発達障害教育総論		単位数	履修方法	配当年次
		2	R or SR	3年以上
科目コード	EG4734	担当教員	後藤 紗織	

※2014・2015年度の募集要項でこの科目の「主たる領域」に誤植がありました。

(誤) 重複・LD等 (重複・言語・情緒・LD・ADHD)



(正) 重複・LD等 (言語・情緒・LD・ADHD)

本学で、「重複障害教育総論」または「言語障害教育」(「コミュニケーション障害教育」)の単位を修得する方はとくに問題はありません。しかし、特別支援学校教諭免許状取得にあたって、教育職員免許法6条別表7などの方法、他大学との単位合算、その他教育委員会からの指導で取得予定の方は、どのような指導を受けて履修しているのか、通信教育部へご相談ください。

※2010年度より「軽度発達障害教育総論」の科目名が「発達障害教育総論」に変更されました。

■科目の内容

発達障害の定義について学び、その特性から生じる問題を理解します。また、その問題に対応するための教育的支援を学習してください。1単位めの課題では、発達障害の定義、および学習障害(LD)・注意欠陥多動性障害(ADHD)・自閉症スペクトラム障害の特徴と問題点を理解してください。2単位めでは、発達障害児に対してどのような教育的支援・配慮が考えられるのかを学習してください。

■到達目標

- 1) 発達障害の種類とその特性を説明できる。
- 2) 発達障害のある児童・生徒へのアセスメントについて説明できる。
- 3) 発達障害のある児童・生徒への支援を総括的に説明できる。
- 4) 発達障害のある児童・生徒への具体的な学習支援を説明できる。

■教科書

「EG4733 発達障害者の心理」と同じ
上野一彦・花熊暁編『軽度発達障害の教育——LD・ADHD・高機能PDD等への特別支援』日本文化科学社、2006年

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	特別支援教育とは (Part 1 の 1)	特別支援教育の教育内容や、その対象とする子どもについて理解する。あわせて、特別支援教育へ転換した教育の歴史を理解する。	特別支援教育が始まってから、対象とされる子ども、教育の内容が変化しています。特別支援教育の教育内容や対象を正しく理解して、発達障害の子どもへの教育を考えましょう。
2	発達障害とは (Part 1 の 2)	発達障害の定義を理解する。他の障害とどのように異なるのか、どのような特性をもっているのか学ぶ。	発達障害は、目に見えづらい障害であるため、理解をすることが難しい障害です。他の障害とどのように違うのか、どのようにわけて考えられているか、正しく理解するようにしましょう。
3	LD (学習障害) とは (Part 1 の 2)	LD (学習障害) という障害について、定義と特性を正しく理解する。	LD (学習障害) は、発達の偏りのために部分的に苦手な能力があり、発達障害の中でも特に理解が難しい障害です。正しく特性を理解しましょう。
4	ADHD (注意欠陥多動性障害) とは (Part 1 の 2)	ADHD (注意欠陥多動性障害) という障害について、定義と特性を正しく理解する。	ADHD (注意欠陥多動性障害) は、行動上の問題が大きいので、学校など集団場面で影響のでやすい障害です。定義と特性を正しく理解しましょう。
5	自閉症とは (Part 1 の 2)	自閉症 (知的に遅れのない自閉症) という障害について、定義と特性を正しく理解する。	自閉症で知的に遅れのないタイプは、人との関わりなど社会的な問題を抱える場合が多く、社会生活で困難を抱えがちです。特性など理解しづらいので、正しく理解できるようにしましょう。
6	学校での支援の仕組みについて (Part 1 の 3)	特別支援教育が始まってから、小・中学校での教育や支援の取り組みが大きく変わってきている。具体的にどのような支援の仕組みになっているのか理解する。	発達障害の子どもの教育や支援を行う際に、学校での支援の仕組みを把握し、学校内での子どものための支援を考えることが重要です。
7	発達障害児のアセスメントについて (Part 1 の 4)	アセスメントとはどういうものか、何のために必要であるのか理解する。具体的には、どういう心理検査などを用いるのか、またその結果を指導に生かすための指導計画も考える。	子どもの能力を判断するために、アセスメントはどの子どもにも重要なものだが、特に発達障害児に対しては、指導計画を作成するために欠かせないものです。正しく検査結果を読み取り、アセスメントができるようにしましょう。
8	学習に困難のある子どもの指導について (Part 2 の 5・6)	教科学習に困難の子どもをどのように見つけ出すか、また具体的な指導や配慮の内容を理解する。	教科学習に困難がある、という状態には、様々な原因が考えられます。その原因に合わせ、またその子どもの特性や環境に合わせて、現実に即した指導や配慮の内容を考えましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
9	読み・書きに困難のある子どもの指導について (Part 2 の 7)	ひらがなや漢字の読みや書きに特に困難のある場合に、その困難さを正しく理解し、適切な指導方法を考える。	ひらがなや漢字の読み書きに困難のある子どもは、LD、知的障害、極端に学習環境が悪いなど様々な理由が考えられます。まずは正しくアセスメントをし、その子どもに適切な指導を行うことが重要です。
10	算数に困難のある子どもの指導について (Part 2 の 8)	数概念の獲得から計算、文章問題まで算数には様々な理解の段階がある。どの段階でつまづいているかを判断し、適切な指導方法を考える。	算数に困難のある子どもは、算数のどの段階でつまづいているのかを見極めることが重要です。その上で適切な指導や配慮の内容を考えましょう。
11	行動上に困難がある子どもの指導について (Part 2 の 9)	行動に困難のある子どもは、大抵集団生活の中で問題が生じる。どのような時に困難が生じているのか、場面を分析し、その問題の原因を考える。	行動に困難のある子どもには、様々な原因が考えられます。またその場面によっても、生じる問題が異なるでしょう。問題の原因と、子どもの特性をあわせて考えることが重要です。
12	社会性に困難がある子どもの指導について (Part 2 の 10)	社会性に困難がある子どもについて、その原因と理由を考える。	社会性に困難がある子どもには、様々な原因が考えられます。発達障害が原因であったとしても、その障害によって対応の仕方が異なります。正しく原因を理解し、支援を考えましょう。
13	対人関係に困難のある子どもの指導について (Part 2 の 11)	対人関係に困難がある子どもについて、その原因と理由、適切な指導内容を学ぶ。	対人関係に困難がある子どもは、自閉症の子どもである場合が考えられます。自閉症は特有のものの見方や感じ方をするので、それに応じた支援や指導の内容を考えましょう。
14	教育と医療 (Part 2 の 12)	発達障害について、医療的な理解や評価、診断を学ぶ。あわせて、教育と医療との連携の方法を理解する。	発達障害の子どもを支援する際に、教育と医療との連携は欠かせないものです。より良い支援を行うために医療的知識も身につけましょう。
15	家庭・地域社会との連携 (Part 2 の 13)	発達障害児の家庭への支援、および、地域社会との支援の連携を学ぶ。	発達障害の子どもを支援する際に、家庭と連携し、適切な支援を協力して行うことが重要です。また子どもの成長のために、地域社会との繋がりも欠かせないものです。

■レポート課題

1 単位め	LD・ADHD・自閉症スペクトラム障害の定義をまとめなさい。また、早期発見につながるような、それぞれの障害における乳幼児期の発達の特徴を述べなさい。
2 単位め	LD・ADHD・自閉症スペクトラム障害のいずれかを選び、学校生活で生じると考えられる問題を述べなさい。また、その問題についての支援策や指導内容をまとめなさい。

■アドバイス

教科書や参考図書、関連すると思われる文献を探し、よく読んで理解したうえで書くようにしてください

い。本の丸写しにならないように、自分の中で消化してからまとめてください。

発達障害のお子さんや特別支援教育に関することは、新聞または例えばテレビのドキュメンタリー番組でも度々取り上げられています。日頃から注意を向けて関心を深めていくと、レポートも書きやすいのではないかと思います。

1単位め アドバイス

教科書のPart 1 2.などを読んで、障害の定義をまとめてください。その内容を理解した上で、参考図書をよく読んで、それぞれの乳幼児期の発達の特徴をまとめてください。発達障害にはそれぞれ、乳幼児期に特徴的な発達の遅れがみられます。(例えば、自閉症の乳児は親への後追いをしない、など)それを理解するには健常児の発達段階もふまえながら、比較して考えてみると理解しやすいと思います。

2単位め アドバイス

LD・ADHD・自閉症スペクトラム障害のいずれかを選び、子どもがその特性のために学校生活で生じやすいであろう問題を具体的に考え、述べてください。(例えば、ADHDなので授業中に集中しづらく学習が遅れる、など)また、その特性の子どもがどうしたらその問題を克服できるのか、支援者としてどのような指導や配慮が必要であるのかをまとめてください。

■科目修了試験 評価基準

- 1) 試験問題で問われていることに、正しく解答すること。
- 2) 内容を理解して解答し、自分の考えも入れること。
- 3) 極端に短い記述の分量にならないようにすること。

■参考図書

上野一彦・海津亜希子・服部美佳子編『軽度発達障害の心理アセスメント——WISC-IIIの上手な利用と事例』日本文化化学社、2005年

横山浩之著『AD/HD, LD, 高機能自閉症 軽度発達障害の臨床』診断と治療社、2005年

小枝達也編著『ADHD, LD, HFPDD, 軽度MR児 保健指導マニュアル』診断と治療社、2002年

(注)

発達障害の定義・診断基準などはさまざまなものがありますが、「DSM」(ディーエスエム)と呼ばれるアメリカ精神医学会の「精神障害の診断と統計の手引き」が2013年5月に改訂され、DSM-5(ディーエスエム ファイヴ)として発表されました。

DSM-5の定義では、例えば「広汎性発達障害」が「自閉症スペクトラム(障害)」に呼び換えられるなどの変更がなされています。

教科書では「広汎性発達障害」「高機能PDD」「高機能自閉症」などの用語が使用されていますが、それが「自閉症スペクトラム」と分類される傾向にあります。そのような新しい傾向をふまえて、学習を進め、発達障害について理解を深めてください。